

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

コロナ禍における肝炎医療コーディネーター養成、肝疾患啓発活動
～北陸3県の実情と今後の取り組みの方向性～

研究分担者 野ツ俣和夫 福井県済生会病院 肝疾患センター長、副院長

研究要旨

【背景】福井県では、これまで肝疾患啓発、肝炎医療コーディネーター（Co）養成事業を拠点病院と県の協働で行ってきたが、新型コロナウイルス感染症蔓延以来、人集合型事業が不能となった。今年度は非集合型の方法を模索実行し、コロナ禍における Co 養成活動につき考察した。

【方法】活動の大きな柱である①診療従事者向け研修会、②市民向け市民公開講座③肝炎医療 Co 養成研修会、および昨年度から開始した④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会につき非集合型の方法を立案し実行した。③Co 養成研修会では、終了後にアンケート調査を行い結果から考察した。また、北陸地区他県の Co の実情を調査した。【結果】①診療従事者研修会は、2020年11月、2021年3月に Zoom を使用した完全 WEB 形式で講演会を開催した。②市民公開講座は、ケーブルテレビの番組を制作し放送した。③Co 養成研修会は、基礎講義は Youtube で配信して事前に視聴していただき、コーディネートの実践に関する研修は Zoom を使用して LIVE で行った。④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会は、レクチャー動画を制作し、ホームページ掲載および希望者への DVD 配布をした。Co 養成研修会後のアンケート調査結果は概ね良好であったが、課題も見られた。また、北陸地区の他県（石川県、富山県）も今年度は非集合型の活動を行っており、Co は多職種が県全体に配置されていることが判明した。【結語】コロナ禍において非集合型に変更して Co 養成研修会を実行したが、今回明らかとなった課題の解析を進め、さらに改善する必要がある。非集合型の利点を生かして、今後北陸地区全体としての模範的な Co 活動の確立を検討する必要があるものと思われた。

A. 研究目的

肝疾患診療に肝炎医療コーディネーター（Co）が介入することで、ウイルス性肝炎患者の受検、受診、受療推進に多大な貢献をしていることは周知の事実である。特に、C型肝炎は撲滅に向けてさらに積極的な取り組みを Co 養成研修会とともに進める予定であったが、2020年春以来、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、主力である人が集まり人を介する活動が出来なくなり、活動が暗中模索に陥った。しかし、活動の停止は認められ

ず、福井県でも非三密型非接触型に変更しての活動を模索し実行することとした。

B. 研究方法

啓発事業の中心である、①肝疾患診療従事者研修会、②市民公開講座、③Co 養成研修会、さらに福井県独自で行っている④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会の4つを、2020年度の秋～冬にかけて実施し、③Co 養成研修会については、終了後アンケート調査を行い、解析、考察を行った。また、北陸地区の全体の Co の現状把握のために、石川県、

富山県の Co 人数、配置状況、今年度の Co 養成研修会の実情を問い合わせた。

C. 研究結果

I：非集合型肝炎患者啓発、Co 養成研修会

① 肝疾患診療従事者研修会は、これまでと同様に一般講演と講師を招いた特別講演さらに県および拠点病院からのお知らせという形を踏襲したが、すべて Zoom を使用した完全 WEB 形式で行った。県内肝疾患診療従事者に広く事前登録のお知らせをし、登録者に URL を送り、2020 年 11 月 27 日午後 7 時より LIVE を行った。受講者は 146 名で、おおむね好評、特にこれまで遠方、夜診療といった事情で会場に行けなかった先生方の参加があったことは大きな利点だった。一方でログインしてしまえば実際の視聴の確認方法はなく、ログイン時間が短かった場合などの受講証の発行基準の設定の問題が残った。2021 年 3 月 5 日に同様の方式で 2 回目を行い、参加者は 168 名であった。



② 市民公開講座は、高齢の方は WEB 視聴が困難であることを予想して、福井ケーブルテレビの番組制作を行った。テーマは“生活習慣と糖尿病と肝臓～生活習慣病が肝臓の大敵！～”として、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士からの講義を、番組司会者とのインタビュー形式で行った。視聴者が楽しく学べるようにクイズコーナーも企画した。2021 年 3 月に放映した。



③ Co 養成研修会は、従来は丸一日をかけ肝臓の基礎知識に関する講義およびコーディネーターの活動事例などの実践に関する研修を行っていたが、長時間の WEB 視聴は

困難と予想し、講義は事前に収録したものを Youtube で一定期間オンデマンド視聴してもらい、2021 年 1 月 22 日に 2 時間の Zoom を使用した LIVE ウェビナーでコーディネーター活動の実践に関する研修を行った。WEB での開催によりこれまでではほとんどなかった医師の参加が 7 名に増え、遠方の方の参加もみられた。また、WEB の一方的な講義はながら視聴や集中力の問題があるため、途中 Zoom の投票機能を使ってアンケートをとりながら進めることで双方向性を高めるようにした。終了翌日に自動送信するフォローアップメールに試験問題へのリンクを貼り、期日までに解答、基準を満たした者に認定証、バッジを提供した。後日行ったアンケート調査の解析結果は後述する。



④ ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会は、福井県の 10 地区医師会ですべて行う予定であったが出来なくなり、講習の内容と同じ 5 テーマのレクチャー動画を作成し、拠点病院ホームページより視聴可能とした。県内の全医療機関に案内をし、希望する医療機関には、DVD を送付した。

ウイルス肝炎患者拾い上げレクチャー動画シリーズ



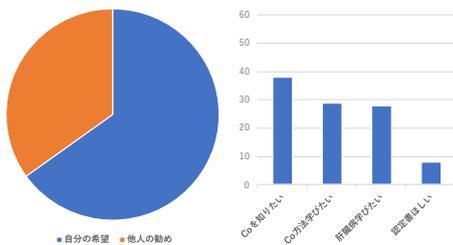
II：アンケート調査結果

Co 養成研修会後のアンケート調査の結果は、次の通りであった。

- 回答者数 63 人（回答率 90%）
- 参加経緯 自身の希望 41 人（65%）、上司などの勧め 22 人（35%）
- 参加理由（複数回答可） Co とは何をすべきかを知りたい 38 人 コーディネート方法・事例を学びたい 29 人 肝臓病を学びたい 28 人 認定証がほしい 8 人
- 満足度の評価
 - 申込方法 満足 60 人(95%) 不満 3 人(5%)
 - Youtube 使用 満足 62 人（98%） 不満 1 人
 - Zoom 使用 満足 63 人（100%）
 - 「Co とは？」の内容 満足 63 人（100%）
 - 「Co の使命」の内容 満足 63 人（100%）
 - 「事例発表」の内容 満足 63 人（100%）
- アンケート投票 満足 61 人（97%） 不満 2 人
- 認定試験 満足 62 人（98%） 不満 1 人

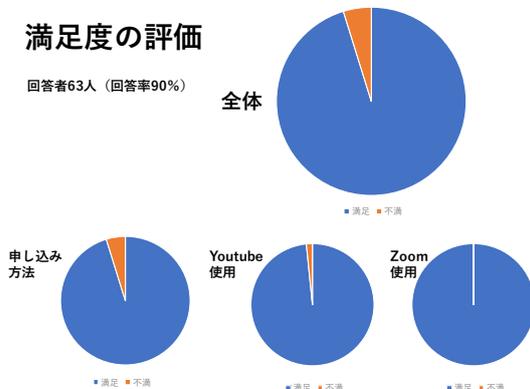
WEB研修会参加経緯、参加理由

回答者63人（回答率90%）



満足度の評価

回答者63人（回答率90%）



○改善希望

音声聞き取りにくいことがあった。
開始時間を 30 分遅らせてほしい。

基礎講義の通知を頻回にしてほしい。

スマホのメールで登録ができなかった。

○研修後、コーディネート実施したか？

実施した（できそう）40 人（63%）

していない（今後も難しい）23 人（37%）

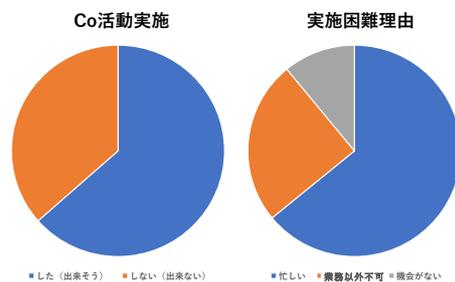
○難しい理由

業務で精一杯 11 人（48%）

業務外のことはできない 3 人（13%）

機会がない 7 人（30%）

養成研修会後のCo活動実施状況および困難理由



○今後取り入れてほしいこと

グループディスカッションなど 14 名

事例発表 12 名

ハンドアウト資料がほしい 2 名

III：北陸3県のCo人数・配置状況と、今年度Co養成研修会

●福井県：これまでに 490 名の養成を行った。職種別では、行政機関職員 100 名、医療機関職員 311 名、薬局薬剤師 35 名、健診・健保職員 18 名、企業など一般、その他 26 名で、県内全地区に配置。今年度 Co 研修会は前述の如く WEB 形式で 1 回開催した。

●石川県：これまでに 215 名の養成を行った。職種別では、医療機関職員 144 名、市町村職員 57 名、県職員 14 名で、県内全域に配置。今年度の養成研修は、書面で 1 回、WEB 形式で 1 回開催した。

●富山県：これまでに 328 名の養成を行った。職種は、市町村職員（保健師、薬剤師）、職域健康管理者（保健師）、健診機関担当（保健師、薬剤師、管理栄養士）、調剤薬局薬剤師、ケアマネージャーで、今年度の Co 養成

研修会は、継続研修と合わせて1回行った。

D. 考察

福井県における肝疾患啓発事業については、WEB形式やテレビ出演やDVD作成といった非集合型のあらゆる方策を模索し実行し、一定の成果を挙げたものと思われるが、提供型の一方通行の活動であり、今後第三者的な成果評価が必要であると思われる。今年度のCo養成研修会は、フォローアップ研修を開催できなかったこともあり、過去に受講したことのあるリピーターが半数近い48%を占めた。開催の形式についてはほぼ100%近くの受講者から満足と回答が得られた。一方で、youtube、Zoomともに音声が聞き取りにくいとの意見や、申込登録時に、スマホのメールを登録すると迷惑メール設定などで受信制限され、登録完了メールが届かないことがあるなどの問題もあった。今後取り入れてほしいことの見解としてはグループディスカッションや事例発表という意見や、よりたくさんケースを知って、自分はどうするのかというアウトプットをしたいという意見も見られた。Zoomにはグループミーティングの機能もあるため、次年度の導入を検討したい。前述のWEB形式上の技術的な問題の解決とともに視聴者の希望に出来るだけ沿った改善を図る予定とした。

北陸3県の他県の状況は、やはり非集合的に、紙面上やWEB形式を通してCo養成研修会を1~2回行っている。Co配置は3県とも県内全地区に養成がなされているが、対象職種にはやや差がみられた。今後、今回活用した非集合型の方法すなわちWEBなどの利点を生かして3県間の連絡、交流、ディスカッションを行い、北陸地区全体のCo養成推進、レベルアップ、どこでも実行が可能な模範的な研修方法や実際のCo活動方法の確立を行う必要があるものと思われた。

E. 結論

今年度は、コロナ禍の中、Co養成研修、肝疾患啓発事業ともに非集合型のあらゆる手法で不十分な面があった一方、これまで集合不能であった方でも誰でもどこでも参加できる利点が見られた。次年度以降はアンケート結果の解析から考察される改善点につき、特に仕組みや運営の部分でさらにブラッシュアップを重ねることが重要と思われた。また、非集合型の方法の利点を生かして、北陸地区全体で北陸地区としての模範的なコーディネーター活動の推進、確立を図ることが重要であると思われた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

